

パソコン入力検定を通して達成感を得るための取組 ～様々な学習活動に自信をもって取り組むことができることを目指して～

【学校名：千葉県立柏特別支援学校】

～取組のポイント～

パソコン入力検定の取組を通して、パソコンの扱いに慣れ、パソコンを活用して掲示物を作ったり、動画検索サイトで動画を楽しむなど余暇活動を広げたりすることができた。また、パソコンを活用することで生徒の活躍の場が増え、他者から頼られたり、認められたりする機会が多くなった。こうした経験を通して、生徒の自己肯定感を高めることができ、授業や日常生活の場面において前向きな姿勢が感じられた。

1. 実践の概要

(1) 対象生徒

高等部に在籍している生徒のうちの希望者

(2) 教科・領域

- ・年間指導計画でパソコン入力の学習を計画している学習グループについては、職業の時間でパソコン入力検定の受検に向けた学習を実施。
- ・希望者には、昼休み等の時間（自立活動の課題として適切な場合は、自立活動の時間を含む）を活用してパソコン入力検定の受検に向けた学習を実施。

(3) 目標

- ①パソコンを使って、平仮名1字や単語、文章等を正しく入力することができる。
- ②パソコン入力検定の受検に向けた学習を通して、パソコンで文字を入力することに興味をもち、日常生活の場面で生かすことができる。
- ③パソコン入力検定の受検に向けた取り組みを通して、達成感や満足感を覚えることができる。

(4) 学習計画

学習期間 令和3年10月19日（火）～11月30日（火）

検定期間 令和3年12月1日（水）～12月10日（金）

2. 実践の内容

本校では、パソコン入力検定を通してキーボード入力のスキル向上を目指すことを目標としている。また、受検級の合格という目標に向かって学習に取り組む過程で他者から評価され、認められる経験を通して、自己肯定感を高め自信をもつことができるようになることも目標としている。そのため、受検級の決定については、昨年受検した級を参考にして決定したり、入力練習に取り組みながら実態把握を行ったりして、適切な受検級を本人と担任で決めるようにしている。希望者には、昼休み等の時間を活用して、継続してパソコン入力検定の学習に取り組めるようにしている。

パソコン入力検定の学習は、①「時間制限を設けずに、受検級の練習問題に取り組む。」②「時間制限を設け、検定を想定して取り組む。」の流れで行うようにしている。

①では、正しく入力することを目標に取り組んでいる。ローマ字入力表やキーボードの配列を覚えたり、キーボードに添える手の置き方等を確認したり、パソコン入力における基礎部分を定着することができている。



②では、①で定着した基礎を生かしながら制限時間内に問題を解き終わることを目標にして取り組んでいる。監督者からの「あと〇分です。」の言葉かけを目安にしながら、問題を解くペースを掴んでいる様子があった。学習の流れを①→②と固定化することで、教員からの言葉かけがなくとも自分から取り組む様子が多く見られた。日々の学習に取り組む中で、教員が「全問正解だね」や「この前よりも間違えが減ったね」などの言葉かけをすると、笑顔を見せ喜ぶ生徒の様子があった。また、検定に対して意欲的な言動が多くなった。

3. 工夫点

- ・生徒の実態に応じて、学級や家庭で取り組むことができるプリントや教材を作成し、技術や意識の向上を図った。
- ・練習のたびに、成果が分かるように問題をプリントアウトし、生徒と教員でその都度採点をしながら振り返りを行い、意欲の向上へと結びつけた。

4. 実践の評価（成果と課題）

(1) 成果

令和3年度に受験した生徒は40名であり、うち38名が合格をした。12月10日に行った合格発表では結果を知り、多くの生徒が笑顔を見せていた。学習活動の場面で、iPadやパソコンを使った動画編集や、教員や友達の名前をパソコンで入力してネームプレートを作ることができるようになり、生徒の活躍の幅が広がった。活躍の幅が広がると、多くの教員や友達から頼られたり、認められたりする場面が増えた。パソコン入力検定の取り組みを通して、授業に対して前向きな姿勢が十分に感じられた。

(2) 課題・展望

本校の高等部の教育課程には、特設した「情報」の時間がないため、継続したパソコンに触れる機会が少なく、パソコン入力や文書作成に関するスキルについて系統的な学習を行うことが難しい。毎年、10月下旬頃からパソコン入力検定に向けた取組を行っているが、パソコンに触れていない期間が長くあるため、パソコン入力の感覚を取り戻すまでに時間がかかってしまう。来年度からは、本校高等部の生徒は「東葛の森特別支援学校」へと転学する。東葛の森特別支援学校では、教育課程に「情報」の時間を設定する予定なので、パソコン入力や文書作成等に関するスキルを系統的に学べるような環境づくりを整備していきたい。また、系統的な指導ができるような指導内容の精選や指導体制づくりも合わせて整備していきたい。